

- 生徒支援目標
- (1) 自ら考え、判断し、行動できる生徒（自立）
 - (2) 自分自身とまわりの人を大切にできる生徒（協働）
 - (3) 相手のことや先のことまで考えた言動をとることができる生徒（想像・創造）

「地震」が起こったとき、「自分にできること」は？

2018年6月18日7時58分頃、皆さんはどこで何をしていましたか？まさに誰の記憶にも新しい「大阪府北部地震」が起こったときです。そして、先日の5月11日15時8分頃、大阪北部で地震があり、本校でも大きな揺れを感じました。この直後により大きな地震が起こることも想定し、本校では緊急の対応として実際にグラウンドまで避難することにしました。皆さんの臨機応変な対応のおかげもあり、6分以内に全員無事に避難することができました。この後に大きな地震もなく、結局のところ、避難訓練のような形にはなりませんが、実際の大きな避難とならず、むしろ避難訓練のような形で終われたことが幸いでした。

さて、自然災害の中でも特に地震は、このような「想定外」のときに起こるものが多いのが実際です。「想定外」の状況となったときに、どんな行動を取る必要があるかを「想定」しておくことはとても大切です。何よりもまずは『自分の身を守る行動』をとってください。例えば、「机の下などに隠れる」、「火を使っていたらすぐに消す」、「ドアや窓を開ける」など。では次に、揺れがおさまったら・・・どうしたらいいのでしょうか。被災した場所が、学校や普段生活している場所ではなかったら・・・。家族と連絡を取るには・・・。停電などで連絡が取れなかったら・・・。「いつ」「どこで」発生するかわからない地震だからこそ、誰もが『自分事』として、日頃から地震時の行動について改めて「想定」しておいてほしいです。

<連絡> 6月18日(金)に大地震を想定した避難訓練を行います。先日(5/11)の実際に起こった地震での避難を振り返りながら、改めて皆さんで真剣に「誰一人取り残さない」避難を実践しましょう！また、裏面に「地震に関するQ&A」と「地震発生時の心得 10ヶ条」を載せておきますので、事前に必ず一読ください。

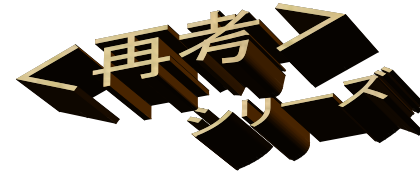
全員が気持ちよく過ごせるために、「今、自分にできること」は？

緊急事態宣言の影響で、様々な大きな行事が中止・延期された中、今年度最初の大きな行事となった体育祭が昨日無事に大盛況で終わることができました。クラス、学年、クラブ、行事など、いろんな場面で様々な仲間と過ごし、昨年度までとは異なる“つながり”ができてきたのではないのでしょうか？そんな新しい1つ1つの大切な“つながり”を強くしていくためには、何よりもまず「全員が気持ちよく生活できる場所」でなければなりません。これまでの学校生活の様々な場面で、いろんなことにお互いに気配りをして

Let's work for everyone!!

「ハチドリ」のひとしずくーいま、私にできることー (長谷川 智恵)

森が燃えています
 森の生きものたちは われ先にと逃げていきました
 でもグリキンティという名の ハチドリだけは いったん逃げて
 ぐちほして水のしずくを一滴ずつ運んで 火の上に着いていきました
 動物たちがそれを見て
 「そんなことをして いったい何になるんだ」といって笑います
 グリキンティはこう答えました
 「私は、私にできることをしているだけ」



② 「校則（歴史的視点から）」

学校教育において、これまで当たり前とと思っていたことを、皆さんと一緒に改めて考えていきたいと思えます。

「なぜこんな『校則』があるのか？」と思ったことがある人はどれくらいいますか？きっと多くの人が一度はこのように思ったことはあるのではないのでしょうか？むしろ実際にそんな「校則」によって、「自分が守られた」というより、「苦しめられた」という経験をした人も多いのでは・・・？また、先日の生徒総会の皆さんからの要望や意見にも「校則」に関するものに対してのものが多かったですね。そこで、そのようなことも含め、「校則」というものを改めて考えてみることにした。今回は歴史的な視点から考え直してみようと思います。

現在のような「校則」がつくられたことには、明治から昭和にかけての社会構造の影響が大きく関係しているそうです。高度経済成長の時代では、効率良く、高品質のものを大量に作り上げることが求められました。また、近代日本社会においては、これまで「集団」を重んじ、「出る杭は打たれる」という生活文化の後押しもあり、「個性」などよりも「規律」が重視されました。今まで以上に他の人と調和が取れることが求められる時代であったからです。学校教育にも、こういった面が強く影響を及ぼしていました。また、校内暴力なども今と比べると激しく、子どもを力で抑えるような指導が各地の学校で行われていました。

このような状況における、学校の指導の拠り所になっていたものが「校則」です。教師としては、その都度、物事の是非を子ども達に説得するのは大変です。学校という組織として決めた「校則」という形のものを作ることで、子どもを指導しやすくしたのです。そのため生活の細かな部分まで「校則」として規定されているようなケースがあるのが現状です。

このような歴史的な経緯から、様々な「校則」の中には、昔（明治や昭和）につくられ、今（令和）の時代には合わないものがあることも事実です。現在は、子どもの権利条約によって、子どもの基本的な人権を守ることが求められています。昔からある皆さんを管理するための「校則」の中には、そういった点で改善が必要なものもあるでしょう。現代の社会状況に合わせ「校則」をより良いものに変えていく、ただ日本の社会の良さも失わないものにするバランス感覚をまずは大人が持つていくことが求められるのではないかと考えます。

小学校から中学校と成長する中で、皆さんが昔からある皆さんを管理するための「校則」に対して疑問を持つこともでてくるでしょう。このような「校則」は、きっと現代、そして未来を生きる皆さんの立場から見ると理不尽だと感じるものが多々あることも事実だと思います。これから生きていく皆さんを中心に、これまで生きてきた教師や保護者の皆様と共に、令和版の皆さんの未来のための「校則」を考えていくときなのではないのでしょうか。

最後になりましたが、皆さんや保護者の皆様からの「校則」に対する様々なご意見やお考えを、ぜひ聞かせていただきたいです。今後、そのような機会を持ちたいと考えています。

「ホッ」と、うれしくなる
ニュースをお知らせします♪



Hot News
ホッとニュース

◇ 昨日の「体育祭」のための様々な準備を、生徒会本部を中心に、各専門委員会、野球部やサッカー部などが本当にテキパキと積極的に取り組んでいました。そのような支えがあった最高の体育祭となったことを忘れずにネ♪

地震に関する Q&A

Q 津波とは？

津波の特徴は？

A 海底の下で大きな地震が起こると、海底の地盤が隆起・沈降し、海水も大きく押し上げられたり沈み込んだりして水位が変わり、四方に広がっていきます。これが津波です。

一般的に、V字型の形状をした湾に津波が押し寄せた場合、湾奥に向かうほど水路が狭くなり、行き場を失った津波はより大きな（高い）津波となって湾奥を襲います。また、水深が浅くなっても同様に津波は大きくなります。

津波が押し寄せる速さは水深に比例し、水深が深い太平洋上ではジェット機並の速度、大陸棚では新幹線並になり、水深の浅い沿岸部や河川等では自動車の速度位になります。

Q 直下型地震とは？

海溝型地震とは？

A 直下型地震とは、内陸部の活断層がずれることにより発生する地震で、阪神・淡路大震災は都市直下型地震でした。

海溝型地震とは、海側のプレートの潜り込みによって陸側のプレートが引きずられて境目に歪がたまり、その歪がある限界に達したときに、元に戻ろうとして跳ね返ることで発生する地震です。

Q 南海トラフ巨大大地震の

発生確率はどのくらい？

A 地震調査研究推進本部によると、南海トラフ巨大地震が10年以内に発生する確率は30%程度、30年以内では70%~80%、さらに50年以内では90%程度もしくはそれ以上と考えられています。

過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100~200年の間隔で大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震（1944年）、昭和南海地震（1946年）がこれに当たりますが、これらの地震が起きてからすでに70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まっています。

<知っておこう>

◇9月1日は 防災の日（大正12年、関東大震災が発生した日）

◇11月5日は 津波防災の日（安政元年、安政南海地震が発生した日）

◇1月17日は 防災とボランティアの日（平成7年、阪神・淡路大震災が発生した日）

Q 震度（階級）とは？

M（マグニチュード）とは？

A 震度とは、ある場所の地震動（揺れ）の強さを、体感、周囲の物体や建造物への影響などに基づき段階に分けて数値で示したものです。以前は気象台職員の体感によって決定していましたが、平成8年から、計測震度計で観測した計測震度によるものと定義され、0~7の8階級のうち5及び6を弱と強に細分化した10階級となりました。

マグニチュードとは、震源域から発生する地震波のエネルギーに関連する量で、マグニチュードが2.0異なるとエネルギーは1000倍異なります。

Q 津波が予想されるときには、

どこに逃げたらいい？

A 津波の発生の恐れがある場合は、地震発生から約3分を目標に津波予報（津波警報または津波注意報）が発表されます。震度2以下の小さな揺れでも津波予報が出ることがありますので充分注意してください。

ラジオ・テレビによる気象庁等からの情報に注意し、津波による浸水が予想される地域では、各市町村が作成したハザードマップ及び地域防災計画に従い、所定の避難所に速やかに避難してください。

また、津波は海だけでなく川にも押し寄せ、川を遡ります。たとえ地震から身を守るためでも、河口近くの津波の被害が懸念される河川公園等には避難しないよう注意しましょう。

Q 天気は予報ができるのに

どうして地震は予知できないの？

A 50年ほど前までは、台風が近づいてきてもわかりませんでした。今のように天気がそれなりに正確に予報できるのは、人工衛星などで広い地域の空の様子を調べることができるからです。

地震を予知するためには、地震が起こる場所である地下深い所についてよく知る必要がありますが、残念ながら、今の科学技術でも地下の状態を正確に知ることは非常に難しいのです。

このため、現在でも地震の予知は困難です。

地震発生時の心得 10ヶ条



1 まず、わが身の安全を図れ！！

○揺れたら、座布団・まくらなどを頭にかぶり、丈夫な机やテーブルなどの下に身をかくす。

2 おさまれば、すばやく火元の始末

○揺れがおさまったら、使用中のガス器具やストーブなどは、すばやく火を消し、ガスの元栓を締め、コンセントは抜く。

3 戸を開けて、すばやく出口の確保

○玄関や窓などの扉を開けて、出口を確保する。

4 火が出たら、協力してまず消火

○万一、出火したら、ボヤのうちに消火バケツ・消火器などで消し止める。

○大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力しあって初期消火につとめる。



5 あわてて外に飛びだすな！！

○大揺れは、長くても1分程度でおさまるので、周囲をよく確認して、あわてず落ち着いて行動する。

6 狭い路地・塀ざわ・がけや川べりに近寄るな

○せまい路地や塀ざわは、かわらや看板などが落ちてきたり、ブロック塀が倒れてくるおそれがあるので、近づかない。

○がけや川べりは、崩れやすくなっているので、近づかない。



7 津波・山崩れ、がけ崩れに注意！！

○海で地震を感じたら、海岸をはなれすばやく高台に避難する。

○津波警報や注意報が解除になるまで、海岸には近づかない。

○山ざわの急傾斜にいるときは、すばやくその場から避難する。

8 避難は徒歩で持ち物は最小限に

○必ず徒歩で避難する。

○携帯品は必要品だけにして、背負えるようにする。

○乳幼児・お年寄り・障がいのある方などの避難の手伝いをする。

9 みんなで協力しあって応急手当

○軽いケガなどの処置は、みんなで協力し合って応急手当を行う。

10 正しい情報の入手を

○テレビやラジオの報道に注意して、デマにまどわされない。

○役所・消防・警察などの広報や指示にしたがって、冷静に行動する。



★ 対処の仕方については、様々な状況により異なる場合があります。

冷静に状況を判断し、まずは自分自身の安全確保を最優先に考えて行動しましょう。

その他の「知っ得情報」

【家の中での地震対策】

- 棚類や家具類は固定金具などで固定する
- 家具や窓等のガラス部分には飛散防止フィルムなどを貼る
- ガラスの飛散に備えて、スリッパを常備する
- 物を収納するときは、重い物を下にする
- テレビやガラスケースなどは高いところに乗せない
- 照明器具などぶら下げている物にはチェーン等をつける
- 家具やエアコンなどの配置と寝る位置の工夫（落下・転倒に備えて）

災害時には、『災害用伝言ダイヤル（171）』や『災害用伝言板サービス』の利用が有効です。安否情報等を伝言蓄積装置に録音し、伝えたい相手にその内容を再生して安否等の確認ができます。いざという時のために、あらかじめ家族や親戚、友人等連絡を取りたい人と事前に確認しておきましょう。